

いるところでございます。

○鈴木富美子議長 11番、浅野敏明議員。

○11番 浅野敏明議員 大変、市長に失礼しました。最後の質問ができなくて、申し訳ないです。

立地企業については、市長からほかの議員の質問にもありましたので、それで理解をしたいと思います。ぜひ全体が埋まるように、今後とも立地企業について検討をいただきたいと思えます。以上で質問を終わります。

鈴木悟司議員の質問

○鈴木富美子議長 次に、順位14番、議席番号5番、鈴木悟司議員。

(5番鈴木悟司議員登壇)

○5番 鈴木悟司議員 清和長井の鈴木悟司です。3月定例会一般質問をさせていただきます。

令和6年1月1日の元旦に発生した能登半島地震によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。皆様の安全と健康を切に願い、被災地の一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

3月に入り、明日7日は、山形県公立高等学校の一般選抜の学力検査が実施されます。全日制県立の一般選抜定員は5,515人に対し、志願者数4,209人で、志願倍率は0.76倍です。皆様もご承知のことと思いますが、地元の長井高校は、一般コース160名の定員に対して122名の出願で0.76倍、探究コース40名の定員に対して37名の出願、0.93倍になっております。長井工業高校については、機械科40名の定員に対して、推薦3名と一般選抜が19名、0.51倍、電子科40名の定員に対し、推薦1名、一般選抜は15名、0.38倍です。福祉環境科については、40名の定

員に対し、推薦5名、一般選抜が7名、0.20倍という状況のようです。少子化の影響もあり、定員割れの高校が多く見られるようになりましたが、長期的な観点で高校再編に取り組んでいかなければならないという思いがあります。いまだに新型コロナウイルス感染症やインフルエンザが収まらない状況ですが、受験生の皆さんには体調を万全に整えて臨んでいただきたいと思います。それでは、質問に入らせていただきます。

私からは、3項目の質問をさせていただきます。

1つ目ですが、高齢者の見守りと買い物支援の取組について質問させていただきます。

令和6年度の施政方針である「みんながしあわせに暮らせる長井」の実現を目指すこと、世代を超えて支え合うまちプロジェクトが重点戦略として上げられております。

長井市は、山奥に住宅などはほとんどなく、コンパクトシティを目指す条件はそろっている地域だと思っております。しかし、急激な人口減少と高齢化率の上昇に伴い、高齢者世帯が増加しております。独居高齢者や高齢者のみの世帯も多くなっております。高齢になれば、自動車事故も多くなっており、免許証を返納される方も増えているようです。田舎は、ちょっとした用でも車がないと非常に不便であります。私の母も84歳になりますが、免許証の返納してから、ほとんど出歩かなくなりました。家族のいる世帯でも、日中は高齢者しかいない家庭に関してはもっと多いのではないのでしょうか。

孤立しないための社会的支援が必要だと考えますが、デジタル技術の活用によって、高齢者を支えられるコミュニティやシステムはできているのか、この点に関して、市長にお伺いします。

次の質問ですが、買い物支援と同時に見守り活動ができる巡回移動販売についてお伺いします。

買い物をするにも、ご近所にあった商店もほとんどが閉まっている状況です。地域で頑張られている商店もございますので、失礼な発言だったかもしれませんが、ご理解いただきたいと思えます。

具体的な動きとして、白鷹町から依頼を受けて、食品の移動販売をしながら、見守り活動をしてもらう事業が展開されております。本来、白鷹町としては、地元で受けていただける事業者を探していたようですが、もう移動販売をされていた方々も高齢化しており、長井市の事業者が2台の移動販売車を使って巡回しているとのことでした。実際、長井市内の業者さんも少なくなっているということをお伺いしました。その方から、新しく導入された軽トラックの冷蔵装置付の移動販売車ですが、改造費込みの価格は、高級車を買える価格になるということをお伺いしました。冷蔵庫の電源も入れっ放しで行かなければならないということで、燃料費等の維持費も相当かかるそうです。買い物難民とも言われる方々にとって、新鮮でおいしい魚が食べれるということで喜んでいただいているとお聞きしました。

長井市においても、高齢者の見守りと買い物支援のできる体制を整えていく予定はございますか、地域づくり推進課長にお伺いします。

次の質問ですが、現在、伊佐沢コミュニティセンターの駐車場に無人のスマートストアが設置されておりますが、他の議員の方々もご質問されておりますので、同じようなことになるかとも思いますが、私からは、各コミュニティセンターにも売店設置による買い物支援をしてはどうかということで、基本的には、コミュニティセンター内への設置、そして、そこには生活用品や賞味期限の長い食品等でよいのではないかと考えています。地域の特色を出していただきながら、地産地消による販売も考えていただきたいと思えます。コミュニティセンターは避

難所にも指定されているわけですので、食料品が置いてあることは、地域の安心につながる取組だと思っておりますが、地域づくり推進課長にお伺いします。

2つ目の質問ですが、令和5年度の道路除雪の状況についてお伺いします。

長井市道路除雪計画に基づいて、冬期間における安全で円滑な道路を確保するとともに、経済産業活動の停滞を抑止し、もって市民の生活の安定を図ることを目的としています。雪が積もることは毎年当たり前のことと思っておりますが、2月はほとんど積もらなかったわけですが、ここ3月に入って、本日も雪が降り、稼働しているようですが、今年度の稼働状況について、建設課長にお伺いいたします。

今年度の少雪による道路除雪の稼働が極端に減少したことに対する最低保障についてお伺いします。

基本的には待機保障として考えておられると思いますが、山形県は、稼働体制を確保するため、業者に対して人件費の最低保障を支払うと明らかにしました。

今後、除雪作業がなくても、委託業者に支払う予定になっておりますが、最低保障と待機保障の算定について、違うところはございますか、建設課長にお伺いします。

そして、除雪オペレーターの担い手確保については、この分野に関して、除雪オペレーターの高齢化は進んでおり、安定した除雪を行うことにより、安全で安心な交通を確保することが難しい時代が来るのではないかと不安視されています。そのために、除雪業務の担い手となる除雪オペレーターを育成することが必要かと考えます。山形県においても、大型特殊免許の取得に関する費用、車両系建設機械運転技能講習に関する費用、除雪機械管理施工技術講習会に関する費用を対象に補助をしているようです。免許を取得するだけでも高額になりますので、

長井市としても補助する考えはございませんか。特に冬仕事になる除雪業務には、農業の担い手が多く関わっていると思っておりますので、ご検討ください。この件に関しては、建設課長にお伺いいたします。

3つ目ですが、コンフォートビズの実施についてお伺いします。

長井市役所のコンフォートビズ、通年輕装化の実施については、昨年、山形県が10月に職員が年間を通じて快適で働きやすい服装で公務に当たることにより、業務能率の向上を図ることを目的に、やまがたコンフォートビズを実施することにしました。昨年の11月に県内の導入については、11市町村が導入されていたようです。本市においては、社会的な理解がどの程度進んでいるか見極めたいという慎重な判断をしておりました。

通年輕装化は、まだ一般的に浸透はしていないなどの理由や、来庁者の受け止め方を懸念していることと思っておりますが、近年の異常気象や気温、天候にも応じた服装を各自が選択できるようにしていただきたいと思っておりますが、総務課長にお伺いいたします。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 鈴木悟司議員からは、大きく3項目のご質問、ご提案をいただいております。私へは、1点目の高齢者の見守りと買い物支援の取組についてということで、(1)の独り暮らしの高齢者の見守りはデジタル技術で対応できると考えるが、本市の取組はということでございます。

まず、今現在、独り暮らし、あるいは、独り暮らしですと大体1,000世帯ぐらいでしょうか。それから、夫婦だけの世帯というのが、高齢者ですね、1,300、400ぐらいで、合わせて2,500近くいらっしゃるわけですが、基本

的に、私どもでは、今回のスマートシティ長井の取組で、高齢者の見守りという発想はございません。高齢者が健やかに暮らしていただけるためにということで、見守りというと、うちにずっと閉じ籠もりっきりで、その安否を確かめるみたいな、そういうことなんでしょうけども、私どもとしては、やはり高齢者で、たとえ独り暮らしだとしても、社会と常に接点がある、あるいは、なかなか高齢になりますとお友達とかが同じように足がなくて行き来したりできなくなるということなどから、非常に寂しい思いをされていると。あと、食事も一人で食べてるということでは、やはり幸せ感、ウェルビーイングというのはもう程遠いわけございまして、そういった意味でいえば、私どもで進めているデジタルの推進によって、それができているかといったら、これはもうまだまだほとんどできていないと思います。恐らくこういった独り暮らしの、多分都会ですと、すぐそばにお店あったり、飲食店あったり、あとは、都会の人は大体歩いて暮らしてますから、歩けるんですね。ところが、地方に、特に我々山形県なんかに住んでますと、とにかく少しでも歩きたくないということで、歩きませんので、したがって、もう高齢になればなるほど、歩けなくなってしまふ。そういったところが非常に課題だなと思っております。これはデジタル技術だけでは到底、その課題を解決することはできない。したがって、私どもとしては、デジタル技術でできるものを模索しながら、課題解決に向けた取組は何ができるかということと、あと、もう一つは、これも長年かけてご協力いただいて、培っていただいたわけですが、地区公民館をコミュニティセンター化して、地域づくりの拠点になってもらうと。結局、一人でなかなか外に出れなくて、食事も、あと、話し相手もないという方を、例えば、今だんだん少なくなって運営そのものも大変になっている、長井独自で大変

優れた、いわゆるミニデイサービスですね、ミニデイサービスなんか、私もお招き預かって、ちょっといろいろ話してくださいと話したりもさせてもらってますが、やはりあそこの場合というのは、みんな楽しそうな感じで、あとは、食事もなかなか今、ボランティアでやってくださる方が少なく、食事できないときはあるんだそうですが、基本、食事をみんなで食べて、ゲームをしたり、歌を歌ったり、あとは、いろんな話を聞いたりして半日とか過ごす。あとは、介護を受けている方でもデイサービスなんかで、やはり送迎を利用して、介護施設等々に集まって、みんなで食事したり、体操したり、あと、入浴したりできると。こういうことをつなげていくということが重要だと思っています。したがって、デジタルでできることというのは、平たく言えば、IoTなんかで遠くからカメラで監視もできますよね。それから、大変だったら、エアコンあれば、エアコンのスイッチも、例えば今ですと、見守りサービスというのは、ご本人の希望される場合は、警備会社をお願いしているわけですが、警備会社のほうでそういうIoTの技術を使っているいろんなことを面倒見る、チェックするというのもできると思います。でも、それは全く、見守りというよりも健やかに暮らしたということにはならないので、そのところを私どもとしては、デジタルだけでは到底できないと思っておりますし、事例としてあまりないなと思ってます。

なお、同じくスマートシティの取組を行っているところで、長野県の伊那市というところがあります。伊那市は、長井市よりは人口規模は大きい、5万人ぐらいですかね。あそこはケーブルテレビがあるんだそうですね。ケーブルテレビで、専用のチャンネルがあるかどうか分かりませんが、買い物その画面見て、ボタン押して、これ、欲しい、あれ、欲しいというのをスーパーとか、何かそういったところと提

携して、それを午前中注文したら、午後の何時ぐらいまでに、それぞれの地区コミュニティセンターか公民館は分かりませんが、それにスーパーが届ける、あるいは、コミュニティセンターの方がスーパーへ行って、それを希望者に配達するというのと、ついでに声をかけるみたいなことをやってる例はあります。

私どももスマートストア、これも実証実験ですから、これが全ていいとは思わないんですが、スマートストアの最低限必要な機能は、コンビニ機能がないと駄目だろうと。ですから、スマートストアの部分で、例えばコンビニがないのが伊佐沢と、今、西根もないんですよね。西根辺り、あってもいいんでしょうけども、そういうときに、コミュニティセンターあたりで、コンビニをやると。それも一部スマートストアにするということではできるわけですね。そこに例えばコンビニでしたら、当然ファクスとかコピーできますから、そこで市の基本的な住民票とか、印鑑証明とか取れるわけですから、そんなこともできる。あと、通常の買い物ができる。ただ、生ものも、魚、お刺身食べたいとか、精肉、牛肉食べたいとか、そういうのはなかなか難しいわけなので、そういうときに、スマホから、そのスマホのアプリを使って、そのアプリから注文できると。それは市内のスーパーで連携できないか。あるいは、それができなかったら、菜なポートと連携して、注文を受けての配達になるわけですから、そうすると、例えば菜なポートだったら、スーパーに嫌だと言われたら、どっかからそれを仕入れてやればいいわけですから、そのスマホのアプリの中にそういう商品をちりばめればいいわけですから。あと、例えば令和6年度からは、各コミュニティセンターに車を、その車の車種はそれぞれのコミュニティセンターで選んでいただくんですが、1台ずつちゃんと置くようにできるようになりそうです。そんなことで、そのコミュニティセン

ターで届けてもいいだろうと。その方法も一つと、あとは、やはり紹介いただいた外部といますか、移動販売車でずっとやっていただくというの、これ、一番いいんですが、それ以外に、言われているのは、店に行きたいと。そういう要望があるんですね。ですから、今度、コミュニティセンターで車、例えばそれがワンボックスカーを選んで、10人乗りだとしたら、9人の希望者をずっと乗せて連れて行ってあげる、そして、みんな買い物が終わった後、また自宅まで送るといったことなどもできると思います。ただ、これも無料じゃなくて、有償ボランティアの組織をして、コミュニティセンターの人たち、主事の人たちがやるんじゃないで、コミュニティセンターがそういう有償ボランティアをやってもいいですよという方々にお願いして、あと、買い物に行きたい方も、そんな、何千円なんて要らないわけですから、数百円で、じゃあ、送ってくださいということで、そういうふうにしてコミュニティービジネスとして成り立つような形をしていかないと、これ、続かないですよ。ですから、いろんなやり方がございます。したがって、これからコミュニティセンターの皆さんと相談し、一番基本は、コミュニティセンターなんです。コミュニティセンターの協力なくして、我々行政だけではなかなかできない。デジタルだけなんていったら、非常に無機的ですよ。顔を見て、直接会って、それから、いろいろ話をして、ご本人も外に出て、いろんな人たちと関わって、あと、健康づくりのための体操してとか、そういったことなどをぜひやっていきたいと思っております。私どもの取組としては、今そういったところを検討しているわけですが、なお、認知症とフレイル予防、これを目的としたeスポーツというのを、実は何回かやっております。eスポーツについては、eスポーツスタジオを、TASの1階のeスポーツのスタジオといますか、

ありますので、その指導者というのは、JAN、日本・アルカディア・ネットワークと連携してるんですが、そういったところ、そういった方たちと日にちを決めて、若い人からお年寄りまで、お年寄りの場合ですと、お年寄りの方にふさわしいようなeスポーツの種類なども選んで、そういったことで一緒に遊びながら健康づくりもするとか、そういったことを今やっているわけですが、具体的には、やはり人との関わりとか、集まるとか、移動するとか、買い物するとか、そういったところの対応を考えていくべきじゃないかなということで、今検討しているところでございますので、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○鈴木富美子議長 新野弘明地域づくり推進課長。

○新野弘明地域づくり推進課長 私の方には、問1の高齢者見守りの買い物支援の中の(2)、巡回移動販売について質問いただきましたので、まず、そちらのほうからお答えいたします。

少子高齢化、核家族化の影響もございまして、本市でも独居を含む高齢者のみの世帯では、食品や日用品の買い物に困っている世帯が増えていくことは認識しております。そういった方々への支援は急務だと感じているところでございます。そのため、長井市コミュニティ協議会につきましては、令和6年度から、新規の事業でございすけども、買い物支援事業といたしまして、移動販売を実施する事業者と連携し、戸別訪問等による食料品や日用品の販売事業を予定しているところでございます。具体的には、先ほど議員からありましたとおり、市内の事業者さんのほうと調整しております。コミュニティ協議会が業務を委託する形で計画しております。もちろん市といたしましても、この取組を支援しながら、福祉部門のほうとも連携しながら、進めていきたいと考えております。当事業の狙いといたしましては、買物が困難な高齢者の把握と、あと、見守りも当然でございま

すけども、プラスして、買い物以外を含めたニーズの把握も行っていきたいと考えてます。コミュニティセンターなど、公共施設にお越しいただく住民の方については、ある程度ニーズの把握は可能でございますけども、課題は移動できない、あと、買い物に行けない方のニーズをどのように把握していくかが大きな課題だと考えております。その関連でいいますと、買い物は一つのコミュニケーションツールでもございますので、この事業を通して、利用客の要望や意見を直接お聞きしながら、利便性の向上であったり、新たな課題解決のための取組につなげていくことが可能ではないかと考えているところでございます。

あと、もう一つの質問で、(3)の、今度は、コミュニティセンター内への売店の設置でございます。

コミュニティセンター内の売店設置につきましては、議員からありましたとおり、伊佐沢コミュニティセンターの無人のスマートストアが設置されておりますが、伊佐沢コミュニティセンターにつきましては、それ以外にも、子供向けの駄菓子であったり、ゴミ袋の生活用品もコミュニティセンターの中で販売しております。特に駄菓子については、最近の子供たちは、近くに商店もなくなってしまったので、なかなか一人でお金で物を買うという経験ができないことから、社会勉強の意味もありまして、コミュニティセンターの担当職員のほうで始めたと同っております。西根コミュニティセンターにつきましても、直売所を中で設置しておりまして、地場の野菜や種、果物やパン、アイス等を販売しております。これらの取組につきましては、地域の方の買い物の利便性の向上に寄与するものの一つかと思われまますが、一方で、コミュニティセンター職員による商品の仕入れ、あとは、陳列、あとは、販売管理等をコミュニティセンターのほうで行っておりますので、他の業務の

傍らで実施しているために、なかなかマンパワーが足りないといった課題がございます。これにつきましては、例えば伊佐沢のように無人店舗を設置するような策も考えられますが、同時に、地域住民自身が地域の課題を自らの課題として捉えることで、そのコミュニティセンターのマンパワー不足のところを主体的に解決するような取組も今後必要になってくるものと考えております。また、地区によっても買い物の事情は異なりますので、それぞれの地区で現状を分析した上で、売店の設置等、地区に合った買い物支援策を展開していくことが今後必要になってくると考えております。市といたしましても、今後も高齢者の見守りや買い物支援等、各コミュニティセンターの取組を支援しながら、関係各所と連携を強化し、地域住民の生活支援体制の構築を図ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○鈴木富美子議長 佐原勝博建設課長。

○佐原勝博建設課長 私には、質問事項の2、令和5年度長井市除雪状況について、3点ご質問いただいておりますので、順次お答え申し上げます。よろしくお願ひいたします。

最初に、(1)、令和5年度長井市道路除雪の実施状況についてでございますが、本年度の本市の除雪体制につきましては、委託車両15台、機械借り上げ車両60台によります通常除雪を実施するほか、除雪要望に迅速に対応するために、随時工区分借り上げ機械として19台確保しておりまして、合計94台体制で除雪を行っているところでございます。今年度につきましては、全工区出動の回数、今日も出ましたが、今日現在で5回となっております、おおよその除雪の執行額につきましては、待機保障費として5,120万円、除排雪稼働費としまして7,180万円で、合計1億2,300万円の執行額となっております。近年では、令和元年度につきましても、降雪量が少ない年でございまし

たが、令和元年につきましては、全工区で出動が1回だけということでしたので、待機保障費については4,900万円、除排雪稼働費については900万円の合計が5,800万円ほどということでしたので、比較いたしますと、今の時点で6,500万円ほど多く執行しているというような状況がございます。

続きまして、(2)の少雪による道路除雪の稼働が極端に減少したことに対する最低保障についてということで、県と市で保障の算定について違いがあるかというようなご質問でございます。

今年度、本市では、待機保障といたしまして、12月25日から2月29日までを待機保障の期間といたしまして、除雪を行わなかった日における委託車両、機械借り上げ車両に係る人件費の保障を行っているところでございます。保障の内容につきましては、除雪工区の距離に応じまして、1日当たりの保障時間、こちらについては1.5時間から2.5時間になりますが、この保障時間を設定いたしまして、それに1時間当たりの単価、これについては、特殊車両のオペレーターの労務単価に準じた額といたしまして、今年度は510円になりますが、この単価を掛けた額で精算しているところでございます。1日当たりいたしますと約80万円ですので、全く稼働なしというような場合でも、今年度については5,420万円ほどの支出が発生するというような内容になっております。

一方、県についてでございますが、県は、除雪車両が全て県の所有でございますので、機械を借り上げての工区というのがないということがまず一つあります。県の稼働補助といたしましては、工区ごと、除雪車が出動した日数を過去10年で平均化いたしまして、基準日数を設定した上で、それに1日当たり想定される稼働時間、5時間ということですが、この時間を掛け合わせまして、保障費の算出を行い、それを

下回る稼働となった場合について、差額分を精算するというような保障の運用方法になってございます。

本市と県では、保障の運用方法が異なりますが、どちらも除雪業者の人件費を一定程度保障する内容になっているところでございます。それで、今後についてでございますが、持続可能な除雪体制を構築するために、県や近隣市町の保障の状況を参考にしながら、来年度に向けまして新たな除雪業務稼働保障の運用について検討のほうを進めてまいりたいと考えているところでございます。

続きまして、(3)の除雪オペレーターの担い手確保についてのご質問でございます。

やはり安定的な除雪体制の確立には、マンパワーが不可欠であるということから、人材育成を計画的に取り組む必要があると思っております。県におきましては、議員からありましたとおり、大型特殊免許取得に係る費用や技術講習会の受講費用などを補助いたします除雪オペレーター担い手確保支援事業を行っておりますので、本市におきましても、長井市除雪業務連絡協議会など、除雪業者から実情を聞き取り、課題などを確認した上で、県や近隣の市町の行っております補助制度等を参考にしながら、除雪オペレーターの担い手の確保、育成について検討してまいりたいと考えております。

○鈴木富美子議長 三瓶仁之総務課長。

○三瓶仁之総務課長 私のほうには、問3のコンフォートビズの実施についてご質問をいただいております。それでは、ご回答いたします。

先ほど鈴木議員からもありましたが、山形県では、業務の能率向上のため、職員が年間を通じてネクタイや上着を着用せず、業務に当たるやまがたコンフォートビズ、いわゆる通年輕装化を昨年10月13日から実施しております。この取組を受けまして、本市でも、これまで実施してきたクールビズやウォームビズに加え、公務

の能率化や働きやすい職場環境づくりを図るため、令和6年度からコンフォートビズの実施を検討しているところでございます。ただ、市民及び来庁者に不快感を与えることのないよう、環境省のクールビズにおける服装の可否を参考に、身だしなみについて最低限の基準を設けることと考えております。また、試行期間を設け、来庁者の方々からのご意見を参考に実施してまいりたいと考えております。

○鈴木富美子議長 5番、鈴木悟司議員。

○5番 鈴木悟司議員 答弁ありがとうございます。

市長からは、本当にいろんな、逆にアイデアをいただいたなと思って聞いておりました。私の頭の中で、どうしても見守り、本当に家でいる高齢者の方々が家から出られないとどうなるのだろうと、そして、そこにデジタル、逆に言うところ、そういった警備会社とか、本当にそっこの部分の頭のほうに先に立ってしまって、どうやって見守っていくんだろう、私のうちでも母が本当に一人だけいるという部分で、その見守りってどうなるんだろうと、そういった部分を考えてわけですが、やはり健やかに暮らして、つながっていくという部分が本当に大事なかなと。歩いて出てもらう、外に出てきてもらうというようなやり方をしていくのが一番幸せなんでしょうなと思います。そして、笑って暮らせるという流れになっていくのが一番かと思っております。ただ、本当に、動けない、出られない、本当は出ていけばいいんですけども、家において、いろんな食料なども持ってきてもらいたい、来てもらいたい。そこでの見守りという流れの中で、業者さん、魚屋さんが今それを、去年から、白鷹町では本当にそれができないので、お願いをしているということをお聞きしまして、私もチラシを魚屋さんからもらってきまして、こういうことをやってるんだということで聞いておりました。ただ、やはりこれをする

には、本当にお金かかるということで、そして、その業者がほとんどなくなったということで。昔はたくさん魚屋さんが回っていたんですけども、長井市でもほとんどいないという状況で、これを維持していくのも大変であるという話を聞いておりましたので、そこにきちっとそれなりの経費なり、燃料費なりを出してもらって、お互い対面で会って、本当に安否確認できたり、あと、体調、よさそうだなとか、健康だなとか、そういうところを見てもらうというのがすごく大事なかなと思っております。

逆に来てもらえるという部分は、そこはそれでどんどんやっていってほしいなと思いますし、これからコミュニティセンターを法人化して、コミュニティセンターが独自で動いていくというところは、すごく期待をしておりますので、ぜひ各地区コミュニティセンターのいろんな独自性を持ってやっていってほしいなというところを感じているところでした。

一旦、その辺は私の意見として述べさせてもらって、道路除雪の部分でちょっともう一度お聞きしたいのですが、実際、今はまだ長井の場合はほとんど建設業者さん、あと、個人の方にも委託をされているという形になっておりますが、一つのこれからの例として、基本的に大型特殊なり、そういった免許を持ってる農家、意外と多いという、後継者も多いというか、大型特殊持っていないとトラクターも運転できませんし、そういう方々が残っていくのかなと思っております。実際、冬だけ建設会社にお勤めになって、そういった除雪作業をしているという方々は多いかと思っております。

ただ、庄内のほうでは、農業法人にまるっきり除雪作業を委託するところがあるそうです。そこで、やはり農業法人も冬の仕事がないですから、そこにしっかり自分たちの従業員がそこで働く、除雪作業をする、冬の収入も得るというような方策があるようです。そうする

と、農業法人が冬場の仕事として非常にそこは
お互いありがたいというところで、経営も成り
立っていくという姿があるようです。

今この委託される、あと、業務契約するわけ
ですけれども、実際まだそういった農業経営者が
入ってるという部分は、長井はまだないですか。
建設課長、お願いします。

○鈴木富美子議長 佐原勝博建設課長。

○佐原勝博建設課長 本市においては、そういつ
た委託の形態はまだありませんで、先ほど申し
上げました長井市除雪連絡協議会、こちらのほ
うに一括して委託しているというような内容に
なっております。

○鈴木富美子議長 5番、鈴木悟司議員。

○5番 鈴木悟司議員 ありがとうございます。

実際いろいろ計画書を見せてもらおうと、その
ような形でなっているなど思っているんですけど
も、今後の除雪に関して、やはり農業者が入れ
るようにしていただきたいなというところはあ
りますので、ちょっとこれからいろいろそうい
った団体も出てくればいいのかなど思ってお
ります。すみません、ちょっとまとまってなくて。

その件で、こっちの話でしたけども、機械が
結局、今、建設業者さんは機械を持って、借り
上げてるといふ形の方が多いというわけですけ
ども、やはり貸すという形になってくれること
だと、参入しやすいという話でしたね。ごめん
なさい。借りて作業をするということが今後で
きるようになれば、農業者も入れるのではない
かという話でしたので、ぜひ行政側で機械をそ
ろえて、県は全部、県の所有だということす
けども、ぜひそういう形を取っていただい
ければ、将来的にも人材は確保できるのではな
いかなと思っておりますので、ぜひご検討いた
だきたいと思っております。

私の質問はこれで終了します。ありがとうご
ざいました。

○鈴木富美子議長 ここで、暫時休憩いたします。

再開は午後3時5分といたします。

午後 2時46分 休憩

午後 3時05分 再開

○鈴木富美子議長 休憩前に復し、会議を再開い
たします。

それでは、市政一般に関する質問を続行いた
します。

平 進介議員の質問

○鈴木富美子議長 順位15番、議席番号13番、平
進介議員。

○13番 平 進介議員 共創長井の平 進介で
ございます。初めて一般質問のトリを務めるこ
とになりました。最後の最後で、皆さんお疲れ
のことと思いますが、よろしく願いをいたし
ます。

初めに、本年1月1日、石川県能登半島を震
源とする最大震度7の大地震が発生、激震と押
し寄せた津波により、家屋等の倒壊や多くの犠
牲者が出るなど、大災害となりました。お亡く
なりになられました方々のご冥福を謹んでお祈
り申し上げますとともに、被害に遭われた皆様
に心よりお見舞いを申し上げます。一日も早い
復興をお祈り申し上げます。

国の地震調査委員会の全国地震動予測地図に
よれば、石川県内の令和2年から30年間に震度
6以上の揺れが起きる確率は、石川県の大部分
で0.1%から3%未満とされておりました。こ
のたびの大地震は非常に低い確率の中で発生い
たしました。本市には、長井盆地西縁断層帯が
西山の山裾を南北に走っております。平成17年